

ウォッチング！ 日本の工業

愛知教育大学附属名古屋小学校 榊原 督

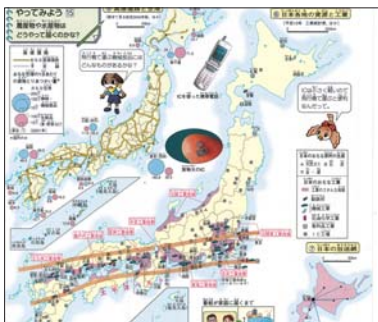
1 はじめに

第5学年の社会科の学習では、日本の産業の様子や、産業と国民生活との関連について、地図や統計などの資料を活用して調査したり、社会的事象の意味を考えたりする力を育てることが求められている。地図帳は、日本の産業の様子を理解する上で、身近な資料の一つである。「ウォッチング！ 日本の工業」の実践から、地図帳の活用例について述べる。

2 日本の工業の現状をとらえよう

身の回りにある工業製品を調べていくと、わたしたちは多くの工業製品に囲まれて生活していることがわかる。それは、自動車やテレビといった機械類だけでなく、化学製品や金属、食料品など、多岐にわたることが明らかになる。そこで、「身の回りにある工業製品は、どこで、どんなものが作られているのだろうか？」という学習課題を設定し、日本の工業の現状を追究していくことにした。

子どもたちは、『楽しく学ぶ小学生の地図帳（初訂版）』（以下地図帳）p.60の「⑥日本各地の資源と工業」を見つけ、太平洋側に工業の盛んな地域が集中していることをつかった。

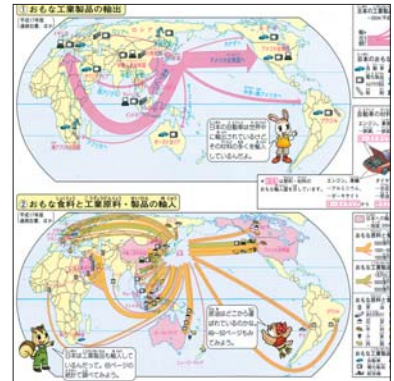


『楽しく学ぶ小学生の地図帳（初訂版）』p.60⑥

ことなどをつかった。また、地図帳p.60の「⑧おもな工業地域の生産額」から、愛知県を含む中京工業地帯は、生産額が多いことをつかみ、地図帳p.63～64の「⑤都道府県別の統計」を見て、愛知県の工業生産額が全

国第一位であることから、愛知県は工業が盛んな県であることをつかった。

そして、日本が世界の中でも屈指の工業国であることをつかった中で、子どもが地図帳p.60の「⑨工業原料の国内生産と輸入の割合」を提示し、工業原料のほとんどを外国から輸入している実態を指摘した。さらに、地図帳p.61の「①おもな工業製品の輸出」と「②おもな食料と工業原料・製品の輸入」を提示して、日本は世界各地へ機械類などの工業製品を輸出しているが、その原料や



『楽しく学ぶ小学生の地図帳（初訂版）』p.61①②

材料の多くを外国からの輸入に頼っている現状を指摘した。このことから、世界全体から見た日本の工業の現状をとらえることができた。

3 今後の日本の工業はどうあるべきか？

これまで学習した日本の工業の現状を踏まえた上で、「今後の日本の工業はどうあるべきか？」を話し合った。

「（原油の価格が高騰している話題を挙げながら）資源を大切にしてもものづくりを進めていかなければならない。」「外国と協力して、もっと安く、環境にもやさしい工業にするべき。」「日本の高い技術力を生かして、外国の工業も発展させるべき。」など、学習したことを生かして発表することができた。

4 おわりに

地図帳を活用すると、「工業地域の分布、工業地域の生産額、工業製品・工業原料の輸出と輸入」などの点から、日本の工業の現状が見えてくる。一つの地図からさまざまな情報を得ることができる地図帳のよさを十分に生かした学習指導の工夫を図っていきたい。